



才市さんの父親は複雑な家庭
二歳で死んでからです。父の死
を育てになつたことがよく分
かりました。

「罪深さ」に気付くのは親が八十
歳で死んでからです。父の死
を喜ばれたことと、その
純朴にご法義を相続され、「称名
念佛」を喜ばれたことと、その
土徳が、才市さんという念仏者
をお育てになつたことがよく分
かりました。

来年2011(平成23)年は、いよいよ親鸞聖人の750回大遠忌法要をお迎えいたします。この勝縁に、もう一度『朋友』第5号・第6号で、『佛教 壮年会を考える』という特集を組んでみました。

が伝道の主体となつた法要でもありました。私は、阿弥陀如来の御本願に催されてお念佛される方々との関わりの中に、お念佛申すことを覚えさせて頂きました。それは、無意識のことではありますが、大悲を伝持せしめられるはたらきの只中にあつたということなのでしょう。この伝統の中に生きる私が、お念佛しながらこの世のことなどについての関わっていくのかということは、自分のことでありながら、未来の無数のいのちに関わることでもあるのでしよう。そのようなことを考えると、御報謝について、もっと活き活きと語り、行動していいのだろうと思います。

この大会を機縁として、今後は自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念佛申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざして、仏教壮年会員としての活動を続けて参りたいと思います。

明年はいよいよ本山において「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」がお勤まりになります。多くの朋友と生涯に一度ともいわれる大遠忌のご勝縁に遇わせていただきたく存じます。

A wide-angle photograph capturing a formal event in a richly decorated hall. The room features intricate gold-painted woodwork on the walls and ceiling. A prominent feature is a large, ornate golden lion statue perched on a pedestal. In the center of the room, a group of men dressed in dark, formal attire (suits) are standing and facing an audience. The audience, also in formal wear, is seated in rows of chairs, looking towards the center. Several flags are displayed on stands in the background, adding to the official atmosphere. The lighting is warm and focused on the central group.



5 2009(平成21)年に「仏教壮大年会連盟結成大会」を開催し、阿弥陀如来の本願に出遇えたよろこびを分かち合い、ともにいのちかがやく世界をめざすことが宣言されました。

4 2008(平成20)年に「浄土真宗本願寺派
教壮大年会連盟」が発足し、連盟化に伴う記念
出版として『朋友—浄土真宗入門のてびきー』及
仏教壮大年会連盟機関紙『朋友』を発刊しました。

3 1980(昭和55)年に「全国仏教壮大年会報」を創刊し、2003(平成15)年には「仏教壮大会活動の活性化に関する専門委員会」が設置され、同年には「活性化専門委員会」から答申が出され、「連盟化」への道が開かれました。

2 1979(昭和54)年3月13日、「仏教壮年の集に関する宗則」が発布され、基幹運動の実進展に資することを目的として、教区仏教壮年織より選出された会議員による「全国仏教壮年会議」が設置されました。

1 1962(昭和37)年、親鸞聖人700回大遠忌を契機として門信徒会運動が展開され、「門信徒の核づくり」をめざす中、特に、教団の再生を担う基幹運動の推進者として、壮年層の門信徒による「仏教壮年会」の組織化が検討されるようになりました。

仏壯が、今なさねばならぬこと

基督教壯年會連盟 活動推進講師 高橋哲了



道教壯年會連盟 活動推進講師 高

「仏教壯年会」は親鸞聖人の「七百回大遠忌」を機縁として、教団の再生を担う基幹

「仏教壮大年会連盟」の【方向性】をお示し下さったものでありますと戴いております。

- ・ 基幹運動推進のため各教化団体と交流・協働し一層の基幹運動の進展に邁進する。
- ・ おみのりの次世代への伝承

「仏教壯年会」は親鸞聖人の「七百回大遠忌」を機縁として、教団の再生を担う基幹運動の推進者として《組織化》が注目されるようになります。その後一九七九（昭和五十四）年には全国仏教壯年会議が誕生し、二〇〇八（平成二十）年四月一日には、今後の「浄土真宗本願寺派仏教壯年会連盟」として新たなスタートを切りました。

ご門主さまは『親鸞聖人七百五十回大遠忌についての消息』の中で「人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教えを伝えなければなりません」とお示し下さいました。

私は、このお言葉がまさに

「仏教壯年会連盟」の【方向性】をお示し下さったものであります。そのお言葉を体して今、私たちがなさねばならぬことは、あらゆる社会の問題に関心を持ち、浄土真宗の教章のこころを体して、念佛者として積極的にさまざまな問題の解決に関わっていくこと。

- ・大遠忌にむけて、さらなる支え合う仲間の増加をめざし、研修会等を通じて單位会、組連盟の拡充の取り組みを強力に行う。
- ・聞法集団としての充実のため、知人、友人を誘い、全国大会への参加を呼びかけて、ますますの「壯年層」の結集をはかる。

- ・基幹運動推進のため各教化団体と交流・協働し一層の基幹運動の進展に邁進する。
- ・おみのりの次世代への伝承につとめ、家族とともに法要行事に参加する。
- 特に「こどものつどい」— キッズサンガーには積極的に参画する。
- 等々が挙げられます。
- これらがご門主さまが御消息の中で「思いを共有する広い心を養い、支え合う組織を育てる」とお示し下さいました【方向性】に合致するのではないかと考えられます。
- そのためには、自らが掲げた重点目標の達成に向けて一層の努力が必要です。
- 全ての組織と協働して朋友の輪を拡げて参りましょう。

浄土真宗本願寺派